

## ムモンオオハナノミ神戸市内で採集

(兵庫県甲虫相資料・223)

高橋寿郎

1988年6月29日神戸市西区伊川谷で(雨が少し降っていた)、まだ充分開花していないノブドウの花の上に多数のベニボタル *Lycostomus modestus* (Keisenwetter) が来ており、その多くが交尾をしているのに出会った。その地点で蜂谷幸雄氏がムモンオオハナノミ *Macrosiagon nasutum* (Thunberg) の1♂を採集された。大変大きく、体長は13mmもあった。

ムモンオオハナノミの記録は従来県下からはほとんど知られていなかったと思うのであるが、ただ岩田久二雄博士は1927年7月19日、池田市の宮の原西方猪名川原において採集されたキボシトックリバチの巣の中から、このムモンオオハナノミの幼虫を見出され、その後その生態解明にとりくまれた貴重な報文(関西昆虫学会々報 9号, p.44—53, 1939)並びに名文“薄幸の寄生者ムモンオオハナノミ”(自然観察者の手記, p.328—336, 1975)の中で、詳しく生態を述べておられる。地図で見ると、猪名川原であるから伊丹市下加茂の所と接している。所謂、行政区分であるから両方にまたがっている地域であると考えられるが、この貴重な記録以外、兵庫県での記録と言うのは知らない。博士ものべておられるが、このムモンオオハナノミを野外で採集することは大変難しく、やはり蜂の巣の中を探さなければと述べておられる。ムモンオオハナノミの寄生が見つかるのはドロバチ科の7種であるとのこと(ムモンオオハナノミの生態に就いては榊田長氏の貴重な報告“キボシトックリバチとその寄生昆虫の生態”昆虫 Vol. 15, No. 4: 153—170, 1941もある)。

オオハナノミ科のものは色々のハチとかシバンムシ、カミキリの幼虫に寄生するものが多いが、野外での成虫の採集は非常に困難である。県下でオオハナノミ科の記録はこのムモンオオハナノミ以外に3種が知られているだけで、筆者もこの種以外オスグロオオハナノミ *Macrosiagon cyaniveste* Marseul を採集しているだけである(いずれも花から得ている。1♀, 23—Ⅷ—1977, 神崎郡大河内町砥峯。1♂, 1♀, 17—Ⅷ—1981, 宍粟郡波賀町水谷。1♀, 25—Ⅷ—1956, 養父郡氷の山)。

大変野外で採集し難いものだけに此処に記録しておきたい(体長が大きいことは既に岩田博士が述べておられる様に、スズバチの幼虫に寄生したものはキアシトックリバチ幼虫に寄生したものの十倍以上の体重であり、この様な現象は寄生昆虫の通性であるとのこと)。

末文だが、この貴重な標本を御恵与下さった蜂谷幸雄氏に厚く御礼申しあげる。